国内でも先進的な施設

製鉄記念室蘭病院『がん診療センター』完成

放射線治療を導入

製鉄記念室蘭病院（松木高雪病院長）の『がん診療センター』が完成した。がんの診断、治療、予防に関する全ての設備を集約させた「国内でも先進的な施設」（同病院）で、「がんの3大治療」の一つ、放射線治療を導入し、化学療法の体制も充実させた。最新鋭の検査・治療装置は今後、順次稼働するといい、西胆振のがん診療に大きく貢献する施設として期待が集まっている。

（松岡秀宣）

道の「がん診療連携指定病院」に指定されている同病院は、手術数が西胆振管内の半数を占めるなど、がん患者の治療を積極的に進めている。ただ、「がん患者の4割弱が受ける」（同病院）放射線治療については、日鋼記念病院や市立室蘭総合病院など、他病院への転院や送迎による治療を余儀なくされていた。

このため同病院は、2012年（平成24年）に「がん診療強化プロジェクト」を立ち上げ、がん診療の充実と強化に向けた体制を検討。①放射線治療装置に、がんの早期発見や再発・転移を診断できるPET－CT（陽電子放出断層撮影装置）の導入②外来化学療法センターの拡充③がん予防やアメニティーの向上―を主眼に置いた同センター新設を決定した。

同センターは鉄筋コンクリート4階建て、延べ約2745平方㍍。1階にはエックス線や電子線の出力が大きい放射線治療装置・リニアックを導入した放射線治療室や、PET－CT室を設置した。中央診療棟の外来化学療法センターは、同センター2階に移設。患者増に伴い、ベッド数は現在の10床から25床に拡充し、個室も用意した。

2階にはこのほか、緩和ケア診察室、患者図書室、喫茶室も設置。3階には通常時は「がんセミナー」などで住民や患者らに開放する一方、非常時には外来患者や住民の緊急避難所に用いる大講堂も設けた。

一方、施設内は「人に優しいデザイン」を具現化。医工連携に基づく各種の共同研究を進める室蘭工業大学が協力。壁には木目を採り入れたり、黄色や桃色などの柔らかい色合いにしたほか、放射線治療室内の壁には地球岬や白鳥大橋を描写。治療オンリーの暗いイメージを払拭した。

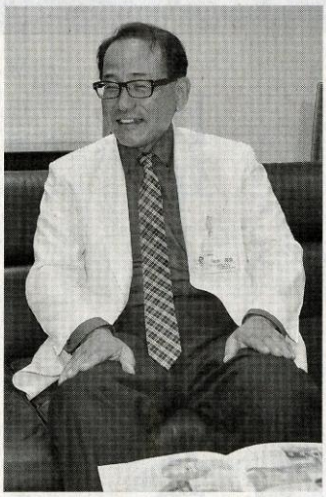
このほか、絵画や写真などを展示する「せいてつギャラリー」を設置。従来の医療施設とは一線を画し、「心安らぎ、温かみのある空間」を表現している。

外来化学療法センターは10月6日から移設。PET－CTは今年11月、リニアックは来年3月に、それぞれ稼働（臨床稼働）する予定だ。

がん治療の地元での完結を目指し完成した「がん診療センター」

治療を西胆振で完結

松木高雪病院長に聞く


がん診療センター完成を受け、同センターの特色や施設運営の考えなどを話す松木病院長

がん診療センターの完成について、松木高雪病院長に特色などを聞いた。

―「がん診療センター」の特色は。

「国内でも珍しいがんに特化して集約した施設。室蘭工業大学の協力で『人に優しいデザイン』も具現化した。空間のデザインとしてのコンセプトだけでなく、患者図書室や喫茶室も設けた。外来化学療法センターやPET－CT（陽電子放出断層撮影装置）を置くスペースは広い造り。アメニティーの充実につながっている」

―施設は順次稼働するようですが。

「緩和ケア外来診察室は9月30日から診察を始めた。化学療法センターは拡充され、10月6日から治療を始める。PET－CTは11月、放射線治療装置・リニアックは来年3月に臨床稼働する予定だ。

患者図書室はきょう10月1日から利用可能。喫茶室は11月上旬にオープンする予定。せいてつギャラリーには、飯村遊宇さんの作品を展示している。今後も明るい気持ちになれるような作品を展示したい」

―地域にとって「がん診療センター」はどのような施設ですか。

「蘭東地域や登別の（がん治療の）患者さんは、蘭西地域に通院せざるを得ない状況だったが、近くで治療を受けられる形となる。西胆振管内全体で見ても、札幌などに通院せず、地域で完結できる形となる。がん治療を西胆振で完結できる。これが一番の目標で、日鋼記念病院や市立室蘭総合病院とも連携して進めたい。また、患者さんが不安なく、治療・診療が受けられるようにしたい」

（聞き手・松岡秀宣）